

銚子市における 救急医療の現状

銚子市医師会救急担当理事

嶋田 一成

H24.4.28

救急医療とは？

一次(初期)救急医療

「入院の必要がなく、外来で対処しうる帰宅可能な患者」

在宅当番医制(日曜日・祝日)

銚子市夜間小児急病診など

二次救急医療

「入院治療を必要とする患者」

中規模救急病院 現在銚子市では2施設のみ

三次救急医療

「二次救急医療では対応できない複数診療科にわたる特に高度な処置が必要、または重篤な患者」

旭中央病院 成田赤十字病院等

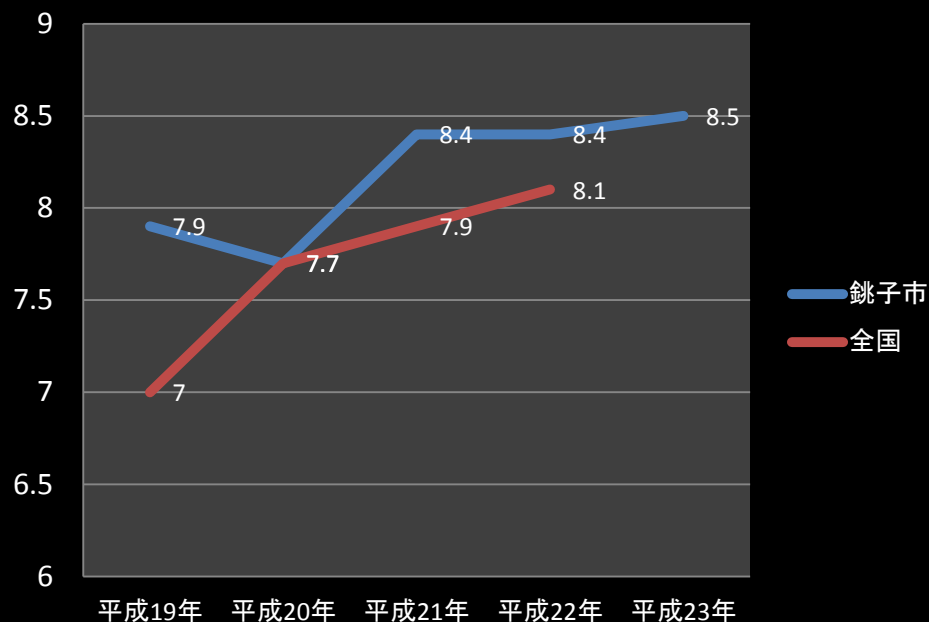
銚子市の救急車の運用状況

現在銚子市は救急車3台体制で運用
年間2,300～2,400件程度の搬送件数

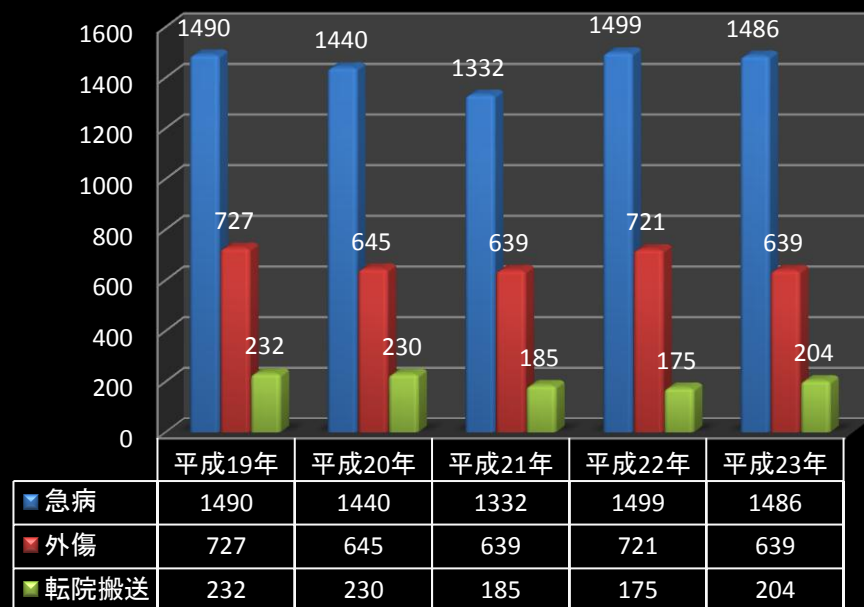


救急搬送までの時間と傷病内訳

現場到着までの平均時間(分)



救急搬送の内訳



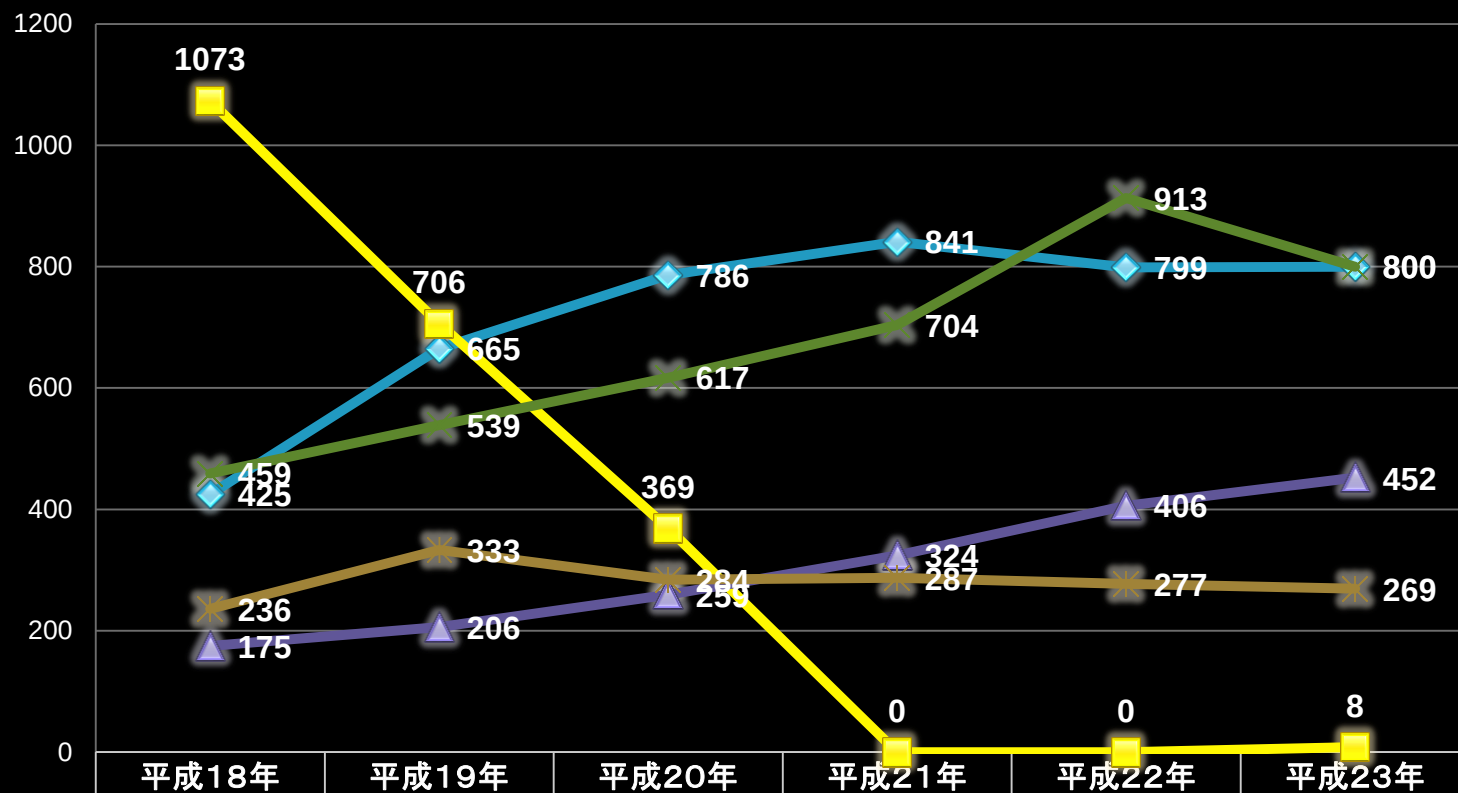
救急搬送のうち軽症は約40%(全国では50%超)

市立総合病院休止と救急医療 の変遷

市立総合病院の経緯

S25年	市立診療所として設立
S26年	銚子市立病院
S59年	銚子市立総合病院 (年間1,200件程度の救急受入れ)
H19年5月	市立総合病院での内科系の入院、救急受け入れ中止
H20年7月	全科入院、救急業務停止
H20年9月末	市立総合病院休止 ～1年7ヶ月
H22年5月	銚子市立病院再開

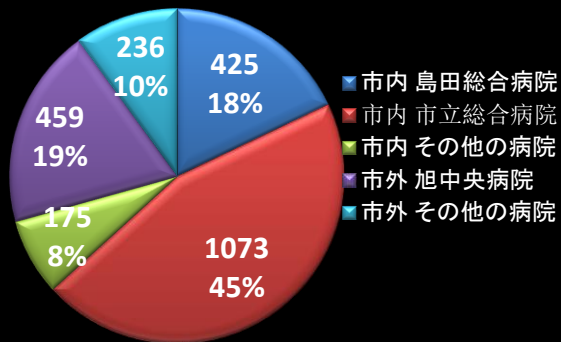
救急搬送病院別年度別推移



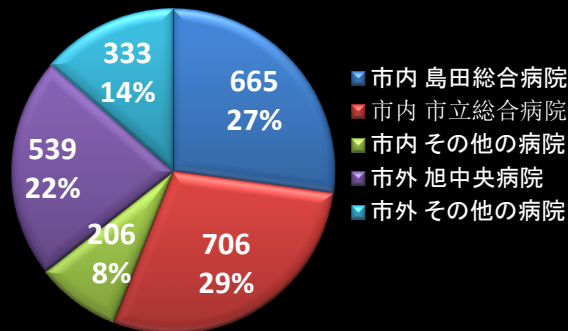
◆ 市内 島田総合病院	425	665	786	841	799	800
■ 市内 市立総合病院	1073	706	369	0	0	8
▲ 市内 その他の病院	175	206	259	324	406	452
× 市外 旭中央病院	459	539	617	704	913	800
✱ 市外 その他の病院	236	333	284	287	277	269

救急搬送病院別年度別推移

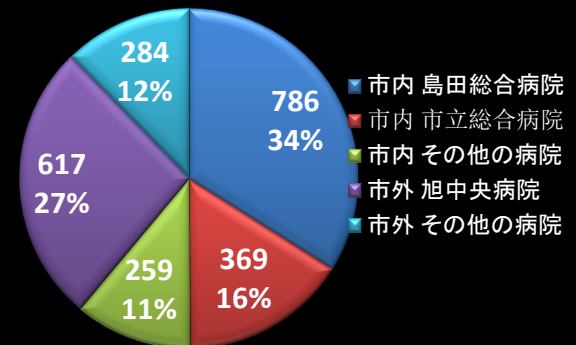
平成18年



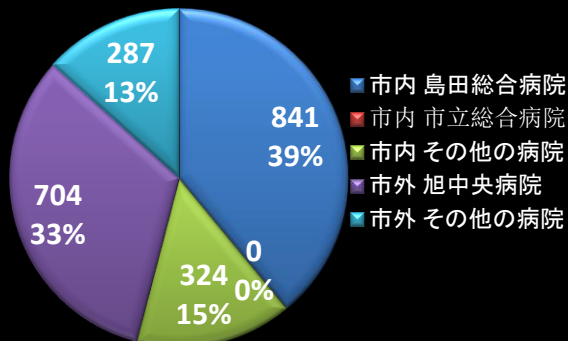
平成19年



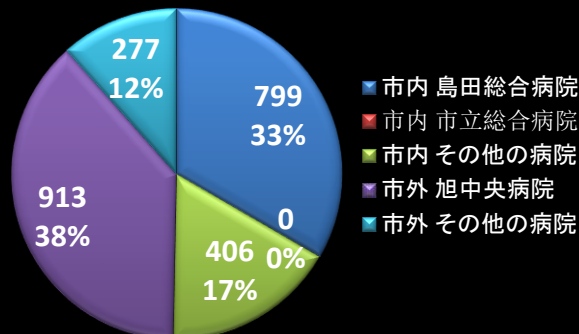
平成20年



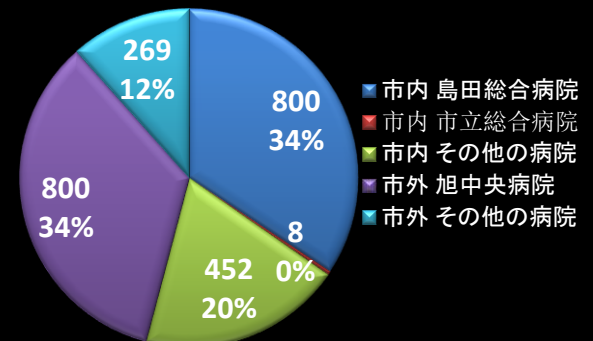
平成21年



平成22年



平成23年



救急搬送時医療機関交渉回数

医療機関交渉回数		平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
	1回目	2,109(86.1%)	2,003(86.5%)	1,805(83.7%)	1,962(81.9%)	1,801(77.3%)
	2回目	219(9.0%)	217(9.4%)	223(10.4%)	223(9.3%)	231(9.9%)
	3回目	75(3.1%)	59(2.5%)	77(3.6%)	129(5.4%)	157(6.8%)
	4回目	28(1.1%)	22(1.0%)	33(1.5%)	58(2.4%)	79(3.4%)
	5回目～	18(0.7%)	14(0.6%)	18(0.8%)	23(1.0%)	61(2.6%)
	1回目＋2回目	2,328(95.1%)	2,220(95.9%)	2,028(94.1%)	2,185(91.2%)	2,032(87.2%)

救急搬送時の医療機関との受入れ交渉回数は1回目＋2回目で90%以上の受け入れ可能となっている。

H23年の交渉回数の増加は、近隣の医療情勢から主に外科系の受け入れが難しくなっていることが原因と思われる。

銚子市における高齢者数の現状

(H24.4.1現在 総人口:68,125 総世帯数:26,884)

高齢者数(65歳以上).....20,393人(H24.4月)

※後期高齢者(75歳以上)....10,829人(H24.4月)

※100歳以上 14人(女性のみ)

高齢化率(65歳以上)....29.9%(H22年度全国平均 23.1%)

〔男〕 8,348人(40.94%) 〔女〕 12,045人(59.06%)

高齢者世帯.....9,450世帯(H22年度)

独居数.....約3,430人(H23年度)

生活保護者数.....451人(H23.7月) * H22年 410人 *

生活保護世帯.....375世帯(H23.7月)

国民保険状況(H23.6月)

加入世帯....13,878世帯 ・加入者数....約26,319人

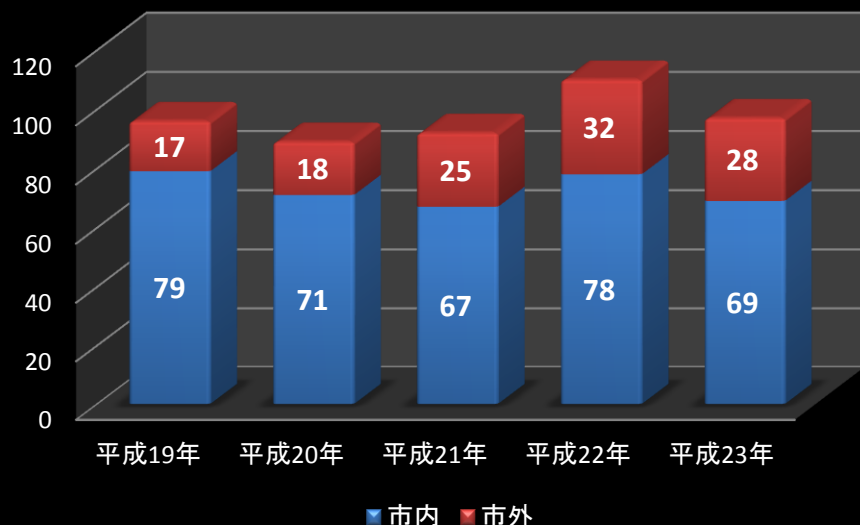
国民保険滞納率....22.99%(約3,000世帯)(H22年全国平均20%)

4.6世帯に1世帯の割合

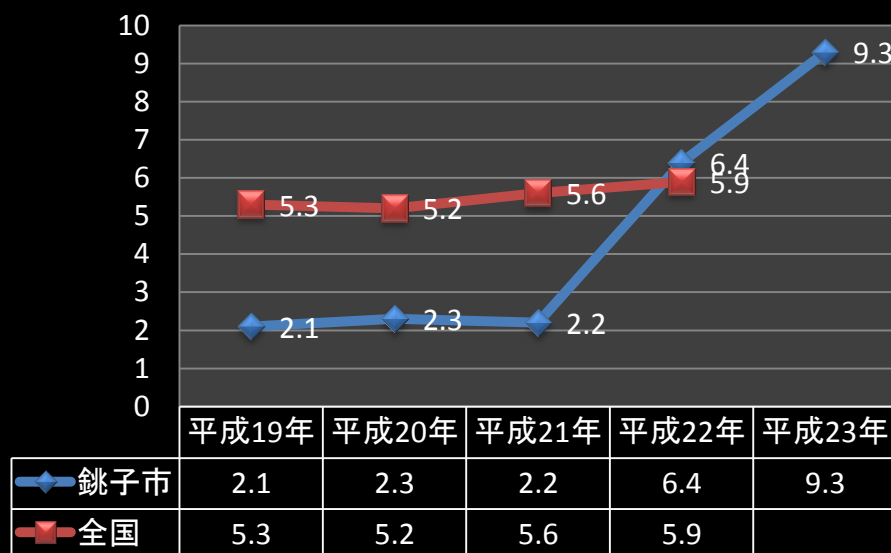
後期高齢者保険加入者数....10,829人

搬送時心肺停止、蘇生率

心肺停止患者搬送件数



蘇生率(%)



バイスタンダーCPR件数	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
	23件(24.0%)	22件(24.7%)	33件(35.9%)	39件(35.5%)	37件(38.1%)

H22年より蘇生率の改善を認めていることはバイスタンダーCPRが行われていた件数が増えたことによるものと考えられるか？

胸骨圧迫～AEDの使用

心肺蘇生

心肺蘇生(CPR)とは脳への酸素供給維持が目的

脳自体には酸素を蓄える能力がないため、呼吸が止まってから4～6分で低酸素による不可逆的な状態に陥る。そのため一刻も早く脳に酸素を送る必要がある

2分以内に心肺蘇生が開始された場合の救命率は90%程度
4分では50%、5分では25%程度

救急隊到着までの数分間(5～6分)に現場に居合わせた人(これを「バイスタンダー」「市民救助者」と呼ぶ)によるCPRが行われるかどうかは救命率に大きく影響する

心肺蘇生を行い、AEDを使用することにより救命率が上昇する

救急医療情勢のまとめ

鉾子市の救急出動件数は年間2,300～2,400件程度で推移

鉾子市立総合病院休止後は旭中央病院、島田総合病院への救急搬送件数が増加。市内医療機関への救急搬送比率も上昇

救急受入れの医療機関交渉回数は2回目まででほぼ90%以上

今までは鉾子市における心肺停止患者の蘇生率は全国と比較して低い状況であった。これは傷病者の発見の遅れ(独居、介護者の不在等による)や高齢者が多い(複数の基礎疾患が多い?)ことによるものか

H22年より蘇生率の改善を認めた理由は、バイスタンダーCPRが行われていた件数が増えたことによるものか？